

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北陸)	◎	商店街（代表者）	来客数の動き	・観光のオフシーズンに入り心配していたが、天候にも恵まれ、売上は前年比では2けた増加と好調に推移している。相変わらずインバウンドが好調で、日本人観光客は少ない印象を受ける。株主総会シーズンなので様々な業種の人と話をしていると、どうやら外国人にとって興味がない食品関連は厳しい商況とのことである。
	○	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・北陸新幹線の敦賀開業から約3か月、人流が安定している感じがあり、消費は上向き傾向である。
	○	家電量販店（店長）	販売量の動き	・気温が高くなり、エアコンの販売量が増えている。
	○	家電量販店（本部）	単価の動き	・比較的暑い日も多く、エアコンを中心に好調だが、来客数の減少が続いている。
	○	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・少し渋っていた消費マインドも落ち着いてきたせいか、数量、単価共に僅かではあるが持ち直している。
	○	その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・6月の曜日周りが良かったことを差し引いても、来客数が増加している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・3か月前は震災特需で忙しかったが、今は震災特需も終わった。一方で、3か月前は震災の影響で観光客は少なかったが、今は観光客が増えている。
	○	競輪場（職員）	販売量の動き	・売行きが伸びている。
	○	その他レジャー施設 [スポーツクラブ]（総支配人）	お客様の様子	・最近、企業からの引き合いが出てくるようになってきたが、まだまだ大手から準大手クラスの企業が多く、中小企業からの反応はほとんどない。
	○	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・能登半島地震絡みの問合せやリフォームが増えている。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月初めの祭りに伴う人出はかなり多かったが、商店街の売上にはほとんど貢献していない。中旬から下旬には大きなイベントもなく、百貨店も含め人通りは少なく、週末の駐車場も空きが目立っている。
	□	一般小売店 [精肉]（店長）	来客数の動き	・6月はギフトの月で、牛肉については復興支援ということもあって、能登牛はそこそこ動いているが、ハムの売行きが良くない。物価高で高額商材が動かないが、単価が上がっているため、それなりに売上はある状態である。
	□	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・前年と比べて土日がそれぞれ1日増加する曜日周りのため、店全体の売上は前年比12%増加の見込みである。28日からスタートしたクリアランスセールは好調に推移しているが、お中元の受注は、依頼主及び届け先共に能登半島地震で家屋が損壊した影響も多くみられ、件数が減少していて厳しい状況である。
	□	スーパー（店長）	販売量の動き	・客は無駄な物を買わなくなってきた。特に果物等のし好品の動きが悪い。
	□	スーパー（総務担当）	競争相手の様子	・震災と物価高の影響があるため、賃上げや減税政策を行っても対応できない。
	□	スーパー（経営企画）	競争相手の様子	・物価高騰等による先行き不透明な社会環境のなかで、競合店の進出の影響も出ている。
	□	コンビニ（店長）	単価の動き	・販売単価が上昇しているが、店舗の総売上額は変わっていない。1日当たりの来客数や来店頻度が減少していると考えられる。そのため景気は変わらず、横ばいであるとみている。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・定額減税などいろいろな施策があるものの、消費者からの積極的な消費意欲は一向にみられない。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車の販売量がなかなか増えない。新車購入に対して客の慎重な様子がうかがえる。

□	乗用車販売店 (役員)	販売量の動き	・新車においては受注の受付枠が限定されており、客の希望全てには対応できていない。受注及び売上は来年以降となるため、売上の増加といった実感はない。ただし、整備部門については順調に売上が伸びており上向きである。
□	乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・数字が落ち込みそうだと感じる時もあるが、月ごとでは最後に持ち直そうとする動きが見られる。
□	その他専門店 〔酒〕(経営者)	販売量の動き	・とにかく良くない。為替は円高に戻るかと考えていたが円安から全く戻らない状態である。物価は上がり、景気が良くなる見込みは全くない状態である。
□	一般レストラン (店長)	来客数の動き	・観光客は余り多くないが、昼食の利用はそれなりにある。
□	観光型旅館(経 理)	それ以外	・能登半島地震の影響で現在休業中である。
□	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・5月までであった回復の勢いが弱くなっている。宿泊部門ではインバウンドが減少し、レストラン部門では宿泊の伸びの鈍化で来客数が伸びない。
□	通信会社(職 員)	お客様の様子	・客からの問合せ内容に変化がない。
□	通信会社(営業 担当)	販売量の動き	・特に目立った新商品もなく特別なスマートフォン需要がある時期でもないため、購入は落ち着いている。
□	通信会社(役 員)	販売量の動き	・新規契約獲得数及び契約解約数に大きな変化はない。
□	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・国内の団体客や個人旅行、インバウンドも含めて来客数は前年並みに推移しており、横ばいの状態が続いている。
□	美容室(経営 者)	来客数の動き	・最近の物価高で客の来店サイクルが長くなっている。
□	住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・6月は例年需要がある程度ある月であり、今年も例年どおりの契約高である。ただし、他のメーカーでは客は減っているという話が多く、客の動きが見えにくくなっている。
□	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・展示場への予約来場はあるものの景気回復には至っていない。
□	住宅販売会社 (営業)	来客数の動き	・低調な客足や客の言動に変化がない。改善の兆しもないし、悪化の兆候もない。
▲	一般小売店〔書 籍〕(従業員)	来客数の動き	・来客数の落ち込みが今月は特にひどい。
▲	百貨店(販売促 進担当)	来客数の動き	・上旬にお中元ギフトセンターを開設した。依頼主の高齢化や送付件数の減少などの要因で、ギフトの売上は前年から10%のマイナスになるとみている。新型コロナウイルスの感染拡大の頃は、会えない子息へのギフトの送付などで若干上向いたが、コロナ禍の終息後は減少傾向に歯止めがかからない。
▲	百貨店(販売担 当)	お客様の様子	・北陸新幹線の敦賀開業による影響はまだあり、来客数は前年をやや超えながらも、購入率は低下している。客の購買行動が変化しており、特に商品値上げの影響で価格を気にする客が増加している。ギフトなども1品減らすことで、以前の金額での購入が目立つ。購入までも慎重で時間が掛かるが、帰ってからも気に入らないという理由での返品がやや増加している。客の購入がより慎重になっている。
▲	スーパー(仕入 担当)	単価の動き	・物価高のあおりや為替による輸入商材の値上げが国内の相場に影響し、相場で変動する商品が大きく値上がりしている。販売量や来客数にも影響が出ている。
▲	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・円安の影響が大きく、商材の価格が上がっており、客の買上点数が減っている。
▲	自動車備品販売 店(役員)	販売量の動き	・カーディーラー、保険会社の相次ぐ不正問題によって、自動車業界全体で厳しい状況が続く、自動車や車用品、ガソリン販売の低迷につながっている。また、値上げの影響から買い控えや、購入しても低価格商材で抑える客も多い。

	▲	一般レストラン (統括)	来客数の動き	・3月から5月の3か月間は好調であったが、6月に入り北陸への観光需要がほとんどなくなり、その分、来客数が減少している。地元客は引き続き好調を維持しているが、観光需要の減少が響いている。
	▲	スナック(経営者)	来客数の動き	・例年6月は安定した売上が期待できる月だが、常連客の来店も売上も2割減少している。タクシー運転手からも、当店周辺は人通りがないという話を聞いている。
	▲	都市型ホテル (役員)	来客数の動き	・北陸新幹線の延伸効果もあり福井地区の稼働率は好調を維持しているが、石川や富山への波及効果は余りみられず、ゴールデンウィーク明け以降は国内個人客の稼働率が下降傾向にある。
	▲	タクシー運転手	来客数の動き	・従業員数が増えてきたのに総売上金額が上がらない。入電数も減ったままである。観光客の来県も少ない。
	▲	通信会社(役員)	販売量の動き	・通信、放送サービス共に前年同期と比べて契約者数が減っている。
	×	商店街(代表者)	来客数の動き	・土日にイベントがあるときは人出が多く、平日は閑散とした状況が続いている。また、イベント客イコール買物客ではなく、人出が多い割に売上は少ない。平日の人出を増やす商店街としての機能が失われつつある。
	×	コンビニ(店舗管理)	単価の動き	・来客数の落ち込みもあるが、それ以上に客単価が前年に比べて30円から50円下がっている。思い当たる要因がない。
企業 動向 関連  (北陸)	◎	税理士(所長)	取引先の様子	・特に飲食業の調子が良い。ただし、人手不足のなかでアルバイトを確保するため、高い時給を提示しないと確保できない環境にある。材料価格の高騰と人件費率の上昇に耐えうる店しか生き残れない状況である。
	○	食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量の動き	・能登半島地震で被災した工場の復旧が進むにつれて業績は回復しているが、それでも前年比7～8割程度といった状況である。
	○	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・1月1日に発生した能登半島地震に関連し、河川の護岸工事、歩道の舗装用ブロック復旧工事、被災地での復旧支援などといった案件が、従来の客からの仕事に加わっている。
	○	輸送業(管理会計担当)	受注量や販売量の動き	・企業間物流の物量は前年と比べて若干の増加となっている。倉庫関係は好調である。
	○	金融業(融資担当)	受注価格や販売価格の動き	・インバウンドを含めた観光客の増加で、飲食業、宿泊業は堅調である。老舗料亭は外国人の富裕層対策として、地元客と外国人客の2種類のコースを検討中である。
	□	繊維工業(総括)	受注量や販売量の動き	・能登半島地震の被害により稼働を再開できていなかった工場も再開し、生産高は既に震災前程度に回復しているが、本格復旧工事に係る費用負担が重くのし掛かっている。
	□	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・売上が変わらずに推移している。
	□	電気機械器具製造業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・製品販売動向に関して、民生品関係も産業機械関係もほぼ動きがなく、低調のまま先行きが読めない状況になっている。一方で、自動車関連は比較的堅調で大きな落ち込みもなくほぼ同様の受注で、アイテムによっては、来月くらいから受注増加が見込まれる製品もある状況である。
	□	精密機械器具製造業(財務担当)	受注量や販売量の動き	・販売量自体は大きく変わらないものの、高価格帯商材はやや落ちている。
	□	司法書士	取引先の様子	・3月決算の会社の内容は良いようだが、事業報告では資材高騰、人材不足など今後の不安要素を見掛ける。
	▲	—	—	—
	×	不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・現在は活発な話が全く聞けない。同業者の話では、動きが止まっているということである。
雇用 関連	◎	—	—	—
	○	—	—	—

(北陸)	□	人材派遣会社 (役員)	求職者数の動き	・年明け頃から求人数が減り始めていたが、その影響か新規の派遣登録者数が増え始めている。派遣契約を中途解除されたことなどで、仕事を探し始めている人が増えているようにみえる。
	□	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・求人数について変動はなく、派遣先からも積極的な要件の依頼がない。
	□	職業安定所(職 員)	求職者数の動き	・高齢の新規求職者数が増加しており、仕事が見つからないという声も多く聞くが、その反面、若年者には余裕がみられることから、全体としては変わらない。
	□	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・求人数、求職者数、有効求人倍率、就職者数等に大きな変動がみられない。
	□	民間職業紹介機 関(経営者)	求人数の動き	・人手不足の業界は常に募集しているが、人が集まらずマッチングしていない状況である。
	▲	新聞社[求人広 告](担当者)	求人数の動き	・出稿意欲のある製造業関連の求人広告が減少している。
	×	—	—	—